

給食だより

令和4年1月号

さいたま市立与野西北小学校

あけましておめでとうございます。いよいよ2022年も始まり、学年最後の学期となりました。今年も、給食室では、与野西北小のみなさんの心と体の栄養を満たす、安全でおいしい給食を提供できるよう努めてまいります。どうぞよろしく願いいたします。

全国学校給食週間が始まります

学校給食の始まりは、明治22年（1889年）、山形県鶴岡市家中新町の大督寺境内にあった私立忠愛小学校で、生活が苦しい家庭の子どもを対象に昼食を与えたのが、始まりと言われています。当時は、食べ物が少なく子どもたちの栄養補給が第一の目的でしたが、現在では、栄養摂取もさることながら「食」を通して人間関係の育成、日本型食生活の推進、マナーの体得、地域へ根ざした給食など、「食育」としても位置づけられるようになりました。

与野西北小学校では、24日（月）～28日（金）が給食週間になります。給食では、若谷農園さん（緑区）の小松菜を使った料理や、さいたま市ヨーロッパ野菜のカーボロネロを使用した豆乳マカロニスープ、福島県の郷土料理などを提供予定です。児童の活動としては1月中に、1～2年生は調理員さんにお手紙を書き、3～6年生は給食標語に取り組み、給食委員会の児童は調理員さんへのインタビューや、さいたま市で作られた野菜の紹介などを行う予定です。

12月の給食より

夏休みに新しくオーブンが給食室に導入され、2学期から使用できるようになりました。焼き魚やハンバーグ、12月にはフレンチトーストなども給食室で焼きました。人数が多い学校のため、フレンチトーストは調理員さんがかなり頑張らないと作ることができないのですが、時間通りに焼き終わり、子どもたちは喜んで食べてくれて、ほぼ完食でした。

